

発行所

株式会社 FPシミュレーション

大阪市中央区平野町3-1-10 Tel:06-209-7678

編集発行人: 税理士 三輪 厚二 Fax:06-209-8145

◇ 本当の支払能力「当座比率」の分析

Q: 会社の支払能力を調べてみようと思うのですが、どうすればよいでしょうか。

A: 流動資産の中の直ぐ資金化できる資産と1年以内に支払う負債との比率「当座比率」を計算してみてください。

(1) 当座資産を出す

現金預金 + 有価証券 + 受取手形 + 売掛金等

(2) 当座比率を出す

$(\text{当座資産} \div \text{流動負債}) \times 100$

【分析】

(1) 換金性の高い現金預金、受取手形、売掛金、短期貸付金及び一時所有の有価証券などと流動負債とのバランスから当面の支払能力を見ますので、正味の確実な支払能力がつかめます。

(2) 掛売りと違って、小売業のような現金商売では受取手形や売掛金がなく、在庫商品が直接現金化するので流動比率とあまり変わりません。その場合は当座比率が低くてもまず心配ありません。

(3) この比率が悪い場合には、過剰な棚卸在庫を抱えていることが多いようです。

(4) この比率が良くても、定期・積立預金などの拘束性預金や長期サイトの受取手形、コゲつき債権があれば支払能力は万全とはいえません。定期預金や有価証券は、その半分を当座資産とみている会社もあります。

(5) この比率が80%以上なら合格でしょう。平均は次のようになっています。

製造業...110 建設業...83 卸売業...98

小売業... 83 飲食業...92

